

P3-0867

理学療法士の地域学術集会への参加行動と満足度に関する調査

今井 覚志^{1,2)}, 鈴木 徹也^{1,2)}, 福井 奨吾^{1,2)}, 市川 雅彦^{1,2)}, 宮城 新吾¹⁾, 松原 徹¹⁾, 石毛 崇¹⁾, 濱中 康治¹⁾, 大久保 忠¹⁾, 菊池 佑至¹⁾, 渡辺 重人¹⁾, 松尾 郁美¹⁾, 田中 尚喜¹⁾, 千葉 哲也¹⁾

¹⁾東京都理学療法士協会 区西南部・区西部ブロック 第2回学術集会運営委員会,

²⁾慶應義塾大学病院リハビリテーション科

key words 理学療法士・学術集会・参加行動

【目的】 本調査は理学療法士の地域学術集会への参加行動を明らかにすることを目的とした。

【活動報告】 所属理学療法士約 1100 名の区域で、特別講演 2 題（運動器 1 題，神経 1 題），一般演題 9 題（研究報告 2 題，症例検討 7 題）から成る学術集会を開催した。その際にアンケート調査を実施し，経験年数，満足度 (0-100 点)，参加理由および参加目的を尋ねた。参加理由は 4 択（自己研鑽，ポイント取得，命令，その他），参加目的は 4 択（講演聴講，一般演題聴講，発表，その他）からの複数回答とした。なお，アンケート調査は無記名とし，公表に同意された方のみ提出していただいた。学術集会に参加した理学療法士は 159 名であった。アンケートの回答者は 89 名（回収率 56%）であった。理学療法士経験年数は，平均 6 ± 6 年，学術集会の満足度は，平均 80 ± 13 点であった。学術集会への参加理由は，自己研鑽が 83% と最も高く，ポイント獲得は 49%，職場からの命令およびその他の理由は 10% 以下であった。参加理由別の満足度は，自己研鑽を理由とした方の平均が $81 \pm 11\%$ ，ポイント取得が $79 \pm 11\%$ ，命令が $73 \pm 15\%$ であった。また経験年数による特徴として，1 年目の 72% はポイント獲得を参加理由としているが，その他の年代は 44% と低値であった。参加目的は特別講演の聴講が 90% と最も高く，一般演題の聴講は 16%，発表は 10% であった。参加目的別の満足度は，一般演題の聴講を目的とした方の平均が $88 \pm 9\%$ と高いのに対して，発表は $74 \pm 15\%$ と低かった。

【考察】 理学療法士の学術集会への参加理由は，理学療法士協会の生涯学習制度の影響を受けている可能性がある。また，学術集会で得られる満足度は，参加者の行動意欲や自己評価によって変化することが示唆された。

【結論】 地域学術集会への参加者は，自己研鑽欲が強く，特別講演への要求が高い。一方で，参加行動や満足度は参加者の立場により異なる。